



ぶら研 「すんくじら」

令和6年度 志和池小 校長室から ぶらっと研修 17 11月11日 文責 田爪



「子どもたちが主役の授業」に向けて(小中一貫教育授業研究会)

11月6日(水)は、小中一貫教育授業研究会がありました。

「子どもたちが主役の授業」の実現に向けて、「個別最適学び」「協働的な学び」として、特に本校では、論理的に説明し合う姿をめざして取り組んでいます。

今回の授業研究会は、授業観を変える大きなきっかけとなり成果があったのではないのでしょうか。

子どもたちが自分の考えを説明し、説明し合う場面がいくつも見られました。

一つ気付いたのは、説明の仕方が、その子なりの方法があったということです。そして、友だちの考えに対し、「言い換え」をしている場面がいくつかあったということです。同じ考えでも、説明の方法は異なります。多様な説明に触れ、子どもたちは理解を深め、思考を働かせていたように思います。



河村先生、竹田先生、ありがとうございました。

「子どもが、いたずらを注意しても繰り返すのは…、叱るから。」とチコちゃんが教えてくれました。

先日、NHK番組「チコちゃんに叱られる」(再放送)を見ていると、上のように言っていました。

子どもは(年齢が低いと)、感情のコントロールが難しく、理性より本能が勝ってしまうそうです。

「ドーパミン」はやる気や集中力・快樂などの感情に影響を与える神経伝達物質です。

子どもは、行動・感情をコントロールする脳の部分が未発達のため、快樂が勝ってブレーキが利かないことがよくあるのだそう。

しかられても、同じことを繰り返すのは、

「しかられる」→「興味をもってもらえた」→「ドーパミンが出る」→「気持ちがいい」

とループするかららしいのです。

大事なものは、

・過剰に反応せず、「いつものテンションで(冷静にということ)、なぜいけないのか説明することです。

(東北大学 瀧 教授)

このことは、ポジティブ行動支援の「行動のABCフレーム」と共通していると思います。

「行動のABCフレーム」の詳細については次の機会に…。